

P-057

舌痛症患者のカンジダ検鏡陽性者にイトリゾール内用液を用いた投与法の検討

足利赤十字病院 口腔外科

○山根 伸夫、丸山 亮、瀧永 哲、中村 哲朗、青山 裕美

明らかなカンジダ病変や口腔乾燥などの所見がないにもかかわらず、舌の疼痛を訴えカンジダが検出される患者を口腔カンジダ症と定義するかどうかは異論の多いところである。しかしそのような患者に臨床の場ではしばしば遭遇し、含嗽等の各種治療に反応が乏しく、その治療に苦慮することは多くの臨床医が経験していると思われる。我々はそのような患者に対して以前よりイトリゾール内用液を用いて治療し、比較的良好な臨床効(59.7%)を実感していた。しかし、用法通りの投与量に対する服薬のしづらさやその薬価の高さを訴える患者も多く、その処方には多くの制約が生じていた。そこで今回、これらの欠点を軽減する目的でその投与法に工夫を加えた。今回行った投与法は原液(20ml)を2倍に希釈(40ml)し、その半分量(20ml)を口腔内に2分ほど停滞させた後、服薬させるものである(37例)。従来からの投与法による(62例)とその治療成績を比較した。それぞれの成績は前者は62例中37例(59.7%)であり、後者は37例中23例(62.2%)であり、有意差は認められなかった。服薬患者の感想をはじめとしたその概要と若干の考察を交えて報告する。

P-059

口腔保湿ジェルを使用した口腔ケアの検討

名古屋第一赤十字病院 ICU

○連尺野美穂、秋江百合子、錦戸 幸

人工呼吸器関連肺炎(Ventilator Associated Pneumonia: VAP)の予防の一環として口腔ケアを実施している。口腔ケアの目的は、デンタルプラークの除去や舌苔にある口腔内細菌を除去することである。デンタルプラークはブラッシングによる機械的清掃により除去されるため、以前はデンタルペーストとデンタルブラシを使用し、水による洗浄を1日に4~6回実施していた。しかし、洗浄水が気管に垂れ込みVAPに繋がる恐れがあるという文献から、洗浄水を用いない口腔ケア方法の導入を考えた。また、挿管患者は、挿管により開口していることで口腔内が乾燥しやすく菌の増殖に繋がる恐れがある。そこで、洗浄水を用いないこと、口腔内の保湿が維持される方法として、口腔用保湿剤を使用した口腔ケアに変更した。口腔用保湿剤を使用した口腔ケアとは、口腔環境の維持・改善のため、保湿ジェル・スポンジブラシによる清掃と保湿を常時のケアとして取り入れた。それと共に、口腔衛生の向上のため、歯ブラシによるブラッシングを実施し、口腔機能の維持として保湿ジェル・スポンジブラシによるマッサージを導入し、保湿を重視した口腔ケアとした。口腔内保湿剤は、ジェル状で低粘度であり、水分量の多い3M社のオプトレオーズを使用することにした。今回、口腔ケア方法の変更前後でVAP発生率、ケア時間、口腔ケアに必要な人員、物品など比較検討したので報告する。

P-058

姫路赤十字病院歯科口腔外科開設から21年間に於ける入院患者の臨床統計的検討

姫路赤十字病院 歯科口腔外科

○長縄 憲亮、石井 興、釜本 宗史、出原 絵里、山田 道代、中濱麻衣子、総山 貴子

姫路赤十字病院歯科口腔外科開設の1990年6月から21年間の入院患者7180名の臨床統計的検討を行った。1 入院患者の合計は7180名で、男性4042名、女性3138名であった。2 疾患分類では歯牙疾患1723名(14%)、嚢胞性疾患1749名(24%)、炎症997名(14%)、悪性腫瘍849名(12%)、外傷796名(11%)、良性腫瘍455名(6%)、先天異常及び発育異常82名(1%)、その他は529名(8%)であった。3 平均在院日数は9.4日であった。4 居住地域別分布では姫路市が全体の68%を占めていた。入院患者数は開設時から約6倍に増加した。これは新病院移転や近隣歯科口腔外科の閉鎖や、近隣歯科医師会への積極的な関わりを持った事が影響したと考えられた。

P-060

口腔ケア情報提供書の有効活用への取り組み

前橋赤十字病院 歯科衛生課

○田中 淳子、高坂 陽子、長岡恵美子、木村千亜貴、山口 昌子、伊東七奈子、内山 壽夫、小林 克巳、加藤 清司

【目的】当院では、脳神経外科病棟にて、摂食機能療法を実施している。転院に際し規定の用紙に実施内容を記載して口腔ケア情報提供書を送付している。今回、転院先での口腔ケア情報提供書の活用状況や、必要な情報を調査する目的に、アンケートを実施した。またその結果をもとに現在まで使用してきた書式を検討し、内容を改正する。

【対象・方法】口腔ケア情報提供書を送付した、主な20箇所の病院と施設にアンケート調査を実施した。期間はH24年5月15日~5月25日とし、無記名で、複数回答とした。アンケート内容は、1) 口腔ケア情報提供書の認知度や必要性に関すること、2) 転院先の現状把握として、a) 口腔ケア実施時間、b) 実施者、c) 使用用具の種類、d) 義歯に関すること、3) 口腔内トラブルの対応法4) 連携歯科医院の有無について等である。また新たな書式案は、記述式から必要項目を入れたチェック方式に変更し、意見を求めた。

【結果】アンケートの回収率は80%であった。口腔ケア情報提供書を見たことがあるのは12%で、今後必要との回答は87%であった。必要な項目は、義歯の有無62%、口腔状態56%、口腔清掃自立度50%であった。口腔ケアの実施者は、看護師93%、実施時間は10分以内、実施回数は1日3回が多かった。使用用具は、歯ブラシ87%、ガーゼ・スポンジブラシ・保湿剤75%であった。また連携歯科医院の有無については、有が62%であった。書式案では、齲歯の有無や口腔ケアの手技を項目に入れて欲しいとの意見があった。

【結果および考察】口腔ケア情報提供書は今後も必要である。必要項目に求められるのは義歯に関することや、口腔状態であった。今後はこれらの内容を充実させ、口腔ケア情報提供書の改善を図っていきたいと考える。

10月18日(木)
一般演題